



# 神学校だより

JAPAN BAPTIST BIBLE COLLEGE  
日本バプテスト聖書神学校

## Contents 1

校長の机から

石川 実

新学期を迎えて

各神学生

2018年度入学式

2018年度前期伝道実習

齋藤 光彦

井垣 勇基

西牟田 恵理也

## Contents 2

オープンカレッジ

大塚 剛宏

堺 希望

藤田 夏穂

通信課程の紹介

小川 淳司

竹内 友規子

授業紹介 聖書史地理

神学校の思い出

小林 秀夫

## 校長の机から

人々が救われるために

校長 石川 実



弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」

イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざが現れるためです。」(ヨハネ9：2，3)

神学を学ぶ者として心にとめて置かなければならないことは、「知識は人を高ぶらせ、愛は人を育てます。」(第一コリント8：1)ということかと思えます。

冒頭のお言葉で、弟子たちはイエス様に重要な質問しました。因果応報ということがあるのか、ないのかです。この質問自体、論理としては間違っていないと思います。問題は、このとき弟子たちに盲人に対する愛があったのでしょうか。弟子たちは、目の前の盲人を、神学の対象としてしか見ていませんでした。

これに対して、イエスさまは答えられます。イエス様のお答えに神学はありますが、それだけではありません。イエスはこの盲人へ愛をもって、「神のわざが現れるためです。」と言われました。

私たちは自分が分かっていると思っていることにおいて、しばしば愛を忘れてしまいます。「しかし、今、『私たちは見える』と言っているのですから、あなたがたの罪は残ります。」(ヨハネ9：41) ヨブ記において、ヨブの3人の友人も、最初はヨブに同情し、慰めようとして来ました。ところが、そのうちに、「害悪を蒔く者が、自らそれを刈り取るのだ」(ヨブ記4：8)と言います。理屈としては正しいでしょう。原因が害悪を蒔けば、結果は刈り取りということになります。中学数学で「逆は必ずしも真ならず」と学びましたが、苦しんでいる結果から、彼が何か罪を犯しているとは必ずしも言えません。

さて、冒頭のお言葉で、イエスさまは「神のわざが現れるためである」と言われましたが、彼が盲目であったことの目的は、奇跡により目が開けられたということではなく、ヨハネ9：38で、「彼は「主よ、信じます。」と言って、イエスを拝した。」とあるように、イエス・キリストを信じたことであると私は考えます。それがイエス様の愛です。

私たちの神学校の学びは、人々が救われるための学びでなければなりません。

## 新年度を迎えて



4年課程4年 香川 盛治  
浅間BBC

これまでの3年間の神学校生活は、主と多くの方々のお祈りとお心遣いによって過ごすことができて感謝でした。残り少ない神学校生活の中で、今しかいただけない学びや生活を意識しつつ、

気負わず、また怠けずに過ごせればと考えています。主に喜ばれる日々が多く送れるように祈りつつ。「すべてのことには定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある。」

伝道者の書3章1節



4年課程4年 恋田 寛正  
セントラルBC

昨年度、家族が病気や地震、豪雨・台風により、幾度も命が危険にさらされ、無力さに言葉を失いました。病気においては

現在も家族と困難の最中にあります。しかし、今年度も、わたしたちの命を買い取って下さった主に、すべてをお委ねすることができます。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従ってきなさい。」マタイ16章24節

皆さまの安全と健康が守られますようお祈りしております。



4年課程3年 市村 雄治  
上田BBC

神学校に入って2年が経ち、自分では気づいていなかった様々な課題や問題を主からいただきました。一人で悩んでい

れば、希望を持つことはできませんが、主は私の手を取り、足を取り導いて下さいました。その歩みは光に照らされ、心には確かな平安をいただきました。

今年は、昨日よりも今日、主の愛を知り、また主を愛する者として、主のお言葉を求めて学びに励んでいけたらと願っています。先生方、兄弟方のお祈りを心から感謝いたします。



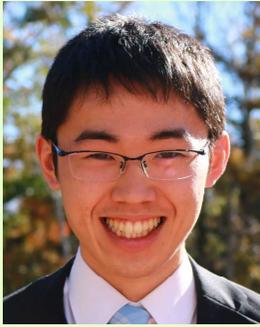
4年課程3年 齋藤 光彦  
佐倉BBC

主の御名を賛美致します。主のお恵みと憐れみを感謝致します。お祈りにおぼえてくださり心より感謝申し上げます。

私は、神様が神様の方法で訓練を与えてくださっていることを実感しています。神学校での学びが与えられている時、御言葉を伝える者として整えて下さいますように、そして最後まで主に従い通すことを願っております。与えられた聖句です。

「すべての事について、感謝しなさい。」

テサロニケ人への手紙 第一 5章18節



4年課程2年 井垣 勇基  
調布BT

「だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」マルコ8：34

昨年の学びを通じて、イエス様に従うとは、言いかえれば自分を捨てることだと深く教えられました。そうした歩みこそが、もっとも喜びに満ちた幸いな人生であると確信し、少しでもイエス様の弟子としてふさわしい歩みができるように、祈りつつ学びに取り組んでいきたいと願っております。



4年課程2年 澤 みのり  
めぐみBT

主の守りとあわれみによって1年目の学びを終え、2年目を迎えることができました。新しい年度を迎え今一番示されて

いることは、主だけを見上げるということです。

主だけを見上げて、日々学び日々の生活を送り、また主の御前でどうであるかを常に祈り考える者でありたいです。全国各地からの尊い祈りによって私たち学生を支えてくださり感謝いたします。引き続き祈りに覚えていただけたら感謝です。



4年課程2年 堺 希望  
滝山BBC

神学生という言葉の意味は、「どれほどキリストに信頼できるか」という一点に集約されると思

います。

「主のすばらしさゆえ」に全てをお委ねして来たはずが、想像を遥かに超えて見え隠れする己の弱さを委ね切れない自分を知っては、日に日に増し加わる「主以外のものへの逃避を促す声」を聞かずに、主の御声を聞く訓練をいただいています。

単純な抱負ですが、「主の御声に聞き従う」。この一点を突き詰めていきたいです。



4年課程2年  
西牟田 恵理也  
亀岡BBC

主の御名を心から賛美いたします。神学校での1年間の学びの中で、み

言葉から、また先生・学生の兄姉との交わりから、多くのことを示されました。

主に用いられやすい器となるために、自分の知恵や力を土台とするのではなく、イエス様のみ言葉を土台として、変えられていきたいと願われます。

今年1年間もイエス様のみこころを探りつつ、一番大本を委ね祈りつつ、歩み、学んでいきたいと思ひます。



4年課程2年 藤田 夏穂  
甲府BBC

今年度も神学校で学べることを主に感謝致します。今年度が始まる前に昨年度を振り返りつつ、新年度のために祈っていた時、

1テサロニケ5:16-24の御言葉が示されました。主によって聖なる者とされることは痛みの伴うものであり、また苦しみも味わうものですが、主の御前で責められるところのない者に近づくことのできるよう、主がそのようにして下さると信じて、祈りつつ、この御言葉をもって日々過ごしていきたいと願っています。



4年課程2年 堀口 和基  
千葉BBC

主の御名を賛美いたします。多くの祈りを感謝いたします。神学校生活の一年目を終えることができました。振り返ると、本当に早い一年間でした。

授業での学び・兄姉との交わりを通して、自分の足りなさを示されることが多くありました。それもすべて主が示してくださったものであると確信しています。

今年度も、主がどのようにしてこの者を取り扱ってくださるのかを期待して、与えられた一日一日を大切に生活したいと思います。

今年度も、主がどのようにしてこの者を取り扱ってくださるのかを期待して、与えられた一日一日を大切に生活したいと思います。

4年課程2年 石川 高嶺兄(千葉BBC)は療養のため前期休学中です。お祈りください。



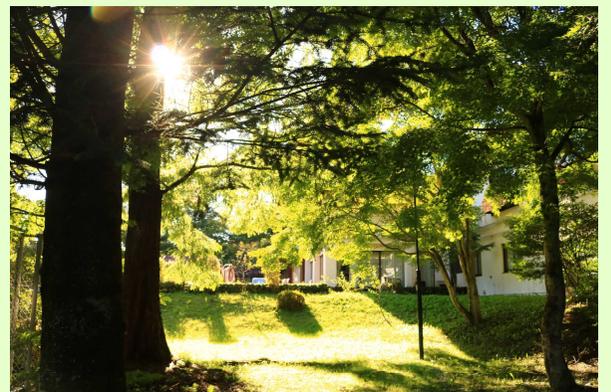
ワーカーズ1年課程1年  
張替 愛  
横浜BBC

神学校入学（新年度）に際して主から示された御言葉：詩篇126篇1-6節  
この一年が、主のお導

きとゆるしの中で与えられた特別な時であることを忘れずに、1日1日を丁寧に歩ませていただきたいです。また、主がくださるあらゆる学びと訓練に対して、「ぼろ雑巾」になることを恐れず、謙遜に、忠実に取り組む者でありたいです。



自然豊かな軽井沢  
キャンパス



## 2018年度入学式



入学式説教者 長江忠司先生(横浜BBC)

日本バプテスト聖書神学校2018年度入学式が9月3日、神学校チャペルで行われました。

横浜聖書バプテスト教会の長江忠司先生から、メッセージをいただき、神学校における知的な学びの必要性と共に、神様から頑なさが碎かれる、霊的な訓練の重要性が語られました。

新入生は横浜聖書バプテスト教会の張替愛姉(ワーカーズ1年課程)です。お証しは前回の神学校便り76に掲載してあります。



## 2018年度前期伝道実習



立川BBCの前で

### 伝道実習の総括

4年課程3年 齋藤 光彦

前期伝道実習として10月8日(月)から12日(金)迄の1週間、立川聖書バプテスト教会で私たち神学生を受け入れてくださり、井口拓志先生、奈保美先生を始め教会員の皆様方に感謝申し上げます。神学校校長の石川実先生のご配慮を感謝致します。

伝道実習のご奉仕の一つとして、10月20日(土)、21日(日)に行われる聖書講演会のトラクト(案内)を10日(火)から11日(水)にかけて計4回行い約4500枚、また日曜学校の案内も約1500枚配布のお手伝いをさせて頂きました。後日、井口先生より集会に新来者、再来者が来会されたことをお聞き致しました。主を賛美致します。

水曜日の祈禱会、木曜日の婦人集会(聖書のお話とお料理の会)で特別賛美、証し、説教のご奉仕をさせて頂きました。又、井口先生より立川聖書バプテスト教会の歴史を教えて頂きました。今回の伝道実習が初めから終わりまで主に導かれ守られましたことを感謝致します。

## 伝道実習の証し

4年課程2年 井垣 勇基

立川聖書バプテスト教会を通して、特に地域に根差した宣教について考えさせられました。

学び会を通して、立川教会の牧師であられる井口先生が、立川の地域を愛し、忍耐を働かせつつ、確実に周囲と良好な信頼関係を築いておられることを知りました。

実際に私たちがチラシ配りを終えてご報告をすると、「あ、あそこの〇〇さんね!」というようにして、すでに関係ができていたことがありました。その一方で、チラシを配りながら地域の方々に教会の案内をすると「ああ、井口さんの教会ね」と地域の方々から好意的な反応が多く見られました。それだけ普段から井口先生を始め、教会の兄弟姉妹が、主の御助けによって周囲と良い関係を気づいておられるのを知ることができて、とても恵まれました。

また、伝道とは決して個人伝道のような直接福音を語る働きばかりではなく、ごく自然な人間関係と、その中でなされる人格的なやり取りを通じても伝えられていくものなのだとすることを教えられました。



## 伝道実習の証し

4年課程2年 西牟田 恵理也

立川聖書バプテスト教会での実習で学んだこととお証させていただきます。

第一に、謙虚に主に仕えることを示されました。実習中に頂いた説教・学び、そして先生方や教会の兄姉との交わり、多くのご配慮から、身を捧げて、謙虚に主に仕えることを教えられました。

第二に、何を目的として主に仕えるのか。そのため何をすべきなのかを、聖書から改めて考える時となりました。実習中の学びの中で、井口先生が、マタイ6章の主の祈りが、「御名があがめられますように」から始まるように、主の御名があがめられること、福音を伝えることを「目的」として、教会で仕えておられるとお聞きしました。

健康管理や、先生が行われている様々な活動も、目的のための「手段」だと話されていました。私自身も、聖書から主のみこころを知り、そのみこころに沿って仕えていきたいと願われました。井口先生・奈保美先生・兄弟姉妹に心から感謝いたします。ありがとうございました。



## オープンカレッジ

オープンカレッジ  
に参加して  
幕張聖書バプテスト教会

おおつか たけひろ  
大塚 剛宏



神学校で10月23日に開催されたオープンカレッジに参加することができましたので、そこで学んだことの一部をご報告して、皆様と学びの共有をさせていただきます。

私は、10月の23日、24日の二日にわたった講義のうち、第一日目朝の開会礼拝の後、10時30分からの講義1、13時からの講義2、15時からの講義3の3コマの講義を聴講させていただきましたが、ここでは主に船橋BBCの杉山元夫兄が担当されました講義2及び講義3について報告させていただきます。

なお、この前に、「教会学校の歴史と現状」と題した上山副校長からの講義1があり、キリスト教教育における「場」の問題、「場の提供」の課題が指摘され、「教会の場」と「家庭の場」におけるキリスト教教育のほかに、「ノン・クリスチャン家庭と教会をつなぐ場」を教会が提供できるか否かが教会学校の発展のカギを握ることを予感させました。また、明治時代に日曜学校（サンデー・スクール）として日本に導入されたプロテスタントのキリスト教教育は、戦後、教会学校（チャーチ・スクール）となり、

教会性と学校性を兼ね備え、全年齢層に対するキリスト教教育となった、との指摘は認識を新たにしました。

続いて、船橋BBCの杉山元夫兄から、「公教育と教会学校教育」と題して、講義2がありました。

兄弟は、高校教師や大学講師として長い教職経験の中から、小中高の公教育において制限されている信仰教育に生徒や学生を導く努力について語られました。その経験に裏打ちされた体験談には感銘深いものがありました。

(1) 兄弟は、若いときにカルヴァンの書いた「キリスト教綱要」という書物を読み、キリスト教教育に開眼しこの取り組みを始められたそうです。その後の長年の教職生活における多くの経験や努力が語られました。

(2) 特に、文科省の定めた「学習指導要領」という制約の中で、如何にして信仰に対して前向きな姿勢を、生徒や学生に対して育んでいくかという困難な課題に取り組んでこられた長年のご苦労が語られました。

(3) その中で、1998年の指導要綱改訂の中で表現された「生きる力を養う」という言葉を手掛かりにして、信仰を大切にすることに繋がることを、それとなく生徒や学生に語る努力をされてきたそうです。その御苦労は私には窺い知ることはできませんが、非常に工夫のいる教育努力であったことを覗かせます。

(4) とりわけ、民主主義の起源を宗教改革に遡って、ルターやカルヴァン、クロムウェルの果たした役割を強調されました。

(5) また、日本の民主主義と教育基本法の確

立に貢献した東大総長・南原繁らのプロテスタント・クリスチャンの役割に注目して、生徒・学生の関心を聖書に向けさせる教育方法を提案されました。

公教育では公に宗教教育は禁止されている中で杉山兄弟のご苦勞とご経験は、教職を目指すクリスチャンには大きな励ましとなるものと思いました。

続いて講義3では、「宗教と科学は矛盾するのか？－学校教育がかかえるキリスト教へのつまずき」と題して、私にとっても大変興味深いテーマに対する兄弟の経験と努力が語られました。

(1) まず、カトリックを含む初期のクリスチャン・科学者たちの業績として、「ガレリオの地動説」、「コペルニクスの地動説」、「ケプラーの惑星運動」、「ニュートンの万有引力」などの観察は、自然観察から自然法則を導き出したクリスチャンの先人科学者たちが、創造主を信じる信仰に基づく業績であったことが指摘されました。

(2) 重要な点として、ダーウィンの進化論は仮説に過ぎず、理論としての証拠は観察されていないことが強調されました。進化の過程にある種の間形化石は現在までに一つも発見されていない事実は、ダーウィンの進化論が科学的な証拠を持たない仮説であることの証拠です。この理論的欠陥はダーウィン自身も自説の欠点として理解していたようです。現実には、今や進化論は科学的な理論としては風前の灯ともいえる状態ですが、教育の現場では、このような点が語れていません。

(3) 更に驚いたのは、同時代の昆虫学者ファーブルは、膨大な著作物「昆虫記」を書いた中で、ダーウィンの進化論を批判していたという杉山兄弟の指摘は、私にとってあらたな知見でした。自然観察から得た不思議な自然界の調和からは、創造主（神）の存在を感じざるを得ないというファーブルの感動は、ID説（知的デザイン説）に通じるものでもあり、共感できるものでした。

最後に教会学校教育への5つの提言がまとめられましたが、その中の一つ、「生きる力」は、教科書だけでなく、いやむしろ、教科書の記述の外にある周辺状況を説明することによって、聖書のうちにこそ「生きる力」があることを、生徒や学生にはっきりと打ち出していく教育が提言されました。「生きる力」の教育は、大切なポイントであると同時に、公教育の場で信仰に導く教育を実行する際の困難さと創意工夫の必要性を強く感じました。

今回の学びを感謝するとともに、教職を目指す、あるいは現在教職に着いている兄弟姉妹の奮起を期待いたします。ありがとうございました。



講師の杉山元夫兄(船橋BBC)

## オープンカレッジの証し

4年課程2年 堺 希望

杉山兄が社会における実際の教育現場における問題を中心に取上げたのに対して、上山師は本来の教会における教育がどのように変遷してきたのかという歴史的側面から教会における信仰教育を見た。また、ご自身の牧会や幼少期の体験、教会を建てた当時の宣教師の時代のことなどをベースに語ってくださった。

子供たちに何を教え、何を中心に教会内の教育組織を作り上げるのか。世間への宗教色はいか程考慮しておくべきなのか。具体的に地域の子供たちや親に教会へ足を運んでもらうためのイベントの例や、何より来ても繋がる事の少ない地域の子供たちをいかにして教会へと繋げるのか、といった問題提起の側面が強かったように思う。

教会に子供があまり来ないという事実は、多くの教会が直面している問題であるかと想像する。浅学ゆえにここで結論を記すには至らないが、個人的には感想として、教会全体で行なう新来者向けのイベントや公園伝道等の「教会から新来者へのアプローチ」よりは、やはり子供同士での勧誘や親同士での勧誘等「個人的な繋がり」が負う部分が大きいように思う。教会全体がその時できることは、個人的繋がりによって来会の意志を持つ方もしくは来会された方に対するケアや、地域と世間一般が持っている偏見を払拭することが主なのではないかと感じる。年齢問わず、クリスチャン一人一人は主の



講師の上山要先生(幕張BBC)



講義の様子

許しの中で今の環境にいるのであるから、結局、教会と世間を繋ぐ架け橋は一人一人が負っている責任であるのだろう。そして教会は、その繋がりによって見えたチャンスを最大限に生かせるように準備をする。ありきたりな構図ではあるが、そうではない教会もあると聞く。時代の流れに流されて目先の人数の獲得に焦点が行くことの恐ろしさを思う。超教派、リベラルで曖昧な教会が増えている中、まず聖書に立つことを常に祈り、願う。単純かつ初歩的な段階で面目ないが、これが今回私が教えられ、確信したことだ。

## オープンカレッジの証し

4年課程2年 藤田 夏穂

オープンカレッジで講師をしてくださった、上山先生、杉山兄に感謝致します。今回、児童伝道に関する講義を聞くことができました。教えられたことは、子どもたち、青年の心が神様に向けられるようにするためにできることは沢山あるということです。また、それを実際に実践しながら子どもたち、青年の心に寄り添い神様のことを伝えていくことです。上山先生も杉山兄もそれぞれが主から与えられた重荷をもって、実践してきたことのお証を講義の中でしてくださいました。

杉山兄は教育現場において、生徒が神様について考えられるように、教える上で話の持っていく方、どう神様を証していくかを常に考え、教えていったことをお話してくださいました。上山先生は、教会として様々な方法で地域と関わり、子どもたちが教会に来られるように取り組まれていました。また、聖職者としての姿や、また教会学校の形態について考え、子どもたちがみことばに集中できる工夫の仕方を教えて下さいました。

神学校周辺の秋



イチイの実

ソバの花と実



私は今回の講義を聞きながら、教会学校でのお話や子ども会でのお話、また普段の会話の中で、子どもたちが神様に心を向けられるように導いてきたらどうかと考えさせられました。そこまで深く取り組んでいなかった自分が示されました。そして一つの御言葉が示されました。「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」ルカ10:28

奉仕においても、子どもたちと関わる時にも主に対してするように尽くさる必要があることを、講義を通して教えられました。どのような面でも尽すことが主を愛することであることを示されました。教会は信仰継承の場でもあります。教えて、子どもたちが救われておしまいはなく、子どもたちが信仰を持ち、個人的に主と交わり、自分で考え判断できる信仰者へと育てていく必要があります。そのために私に今できること、また与えられている賜物を使って、精一杯子どもたちに心を向けていこうと思いました。そのためにも、もっと学び、子どもたちとの関わりを深めていきたいです。教会に与えられている子どもたちが神様に心を向けられるように、私自身が「尽しきった」と言えるように、そして主から「よくやった」と言われるように仕えていきたいと、今回の講義を受け、強く示されました。



## 神学校「通信教育課程」 について

上田聖書バプテスト教会  
通信教育課程担当



小川 淳司

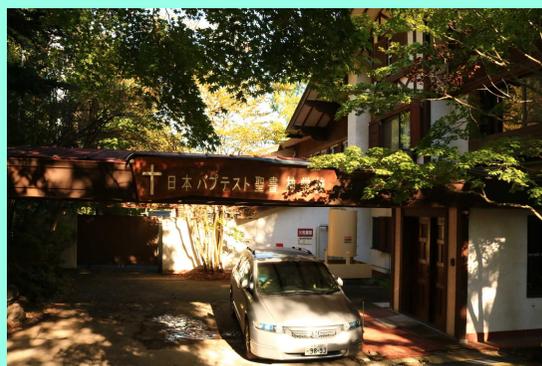
神学校には、本科（4年課程、ワーカーズコース（1年／2年））のほかに、通信制のコースがあることをご存知でしょうか。現在、この通信課程で、6名の方々が学びを継続しています。年齢や立場は様々ですが、おひとりおひとりが、それぞれ主と主のおことばを心から愛し、みことばをもっと良く学び、キリスト者としての歩みに生かしていきたいという意欲と熱心さをもって学び続けています。

通信教育課程の修了に必要な単位数は、必修科目と選択科目を合わせて決められていますが、それを個人のペースに合わせて取得していきます。単位の取得方法は、主に二つの方法があります。一つは、冬期講座、オープンカレッジなど、神学校で集中的に開講される講座に参加し受講した上で、課題レポートを提出することにより、講座担当の先生に単位を認めてもらうスクーリングの方法です。もう一つは、科目ごとに設定された数回の課題レポートを、科目担当の教師に提出することで、その科目の単位を取得する方法です。このようにして単位数を

積み上げていくことで、修了要件を満たすことを目指します。

神学校の「通信教育課程案内」には、入学資格として、「キリスト者として教会に仕える明確な献身に導かれている者で、かつ保守的バプテスト教会の忠実な教会員として活動している者」とあります。通信教育課程は、主と教会に対して、神学校の通信制での学びを通して、これまで以上に献身的にお仕えしたいという導きを頂いている方々に、開かれています。教会の愛兄弟の皆さんの中で、神学校の通信教育課程を修めたい、関心がある、という方がおられましたら、教会の先生にご相談してみたいはいかがでしょうか。ご希望があれば、「通信教育課程案内書」をお送りいたします。

私たちの主は、「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」（マタイ22：37）のおことばを、大切な第一の戒めとされました。みことばを学ぶことは、主を愛することの一部です。通信制という手段を通して、共に主のおことばを一層深く学ぶ恵みをいただいてみたいはいかがでしょうか。



## 「いいことづくめの通信生」

八千代聖書

バプテスト教会

たけうち ゆきこ  
竹内 友規子



「教会ではなく、ちょっとした時間にあなたから聖書のことを聞きたい」そう知人に言われて、私は困りました。私の聖書知識だと質問の答えが中途半端になってしまうからです。

「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。」ローマ10：13、14

福音宣教は神様からの命令です。私はいつも通り神様に相談しました。体の弱い私は今の生活をやめて、神学校へ入ることはできません。そこで私は通信教育のことを牧師に教えてもらいました。牧師の勧めもあり私は、オープンカレッジに参加しました。

ここでは、神様について、今まで知らなかったことを学べて、とても幸せでした。また、軽井沢といういつもと違う場所で神様を向き合える特別な雰囲気。神学生とよき交りも赦されました。本当に楽しい時間が与えられました。

通信教育は自分のペースで進められるので、体力に自信がない私にとってとてもよい学びの方法となってくれています。勉強大変でしょ？と思われるかもしれませんが。私も勉強は苦手ですが、神様を知ることは本当に楽しくて仕方ありません。聖書を知ることは神様も望んでおられることです。また、聖書を必要とする知人も待っています。

もしかしたら周りを見たら、聖書には興味あるけど時間がなくて教会には行けない、という人が沢山いるかもしれません。そのためにも私は、聖書の知識をもう少し高め準備する必要があります。そして、私の喜びをもっとたくさんの人に体験してもらいたいです。このような素晴らしい時間が与えられて、神様に感謝です。

「この町のユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも素直で、非常に熱心にみことばを受け入れ、はたしてそのとおりかどうか、毎日聖書を調べた。」使徒17：11

卒業式と卒業カンファレンスのインターネット配信について。アル・ライクマン先生の講義（9回）と開会礼拝、閉会礼拝、そして、卒業式のビデオと音声を、神学校ホームページよりご視聴いただけます。

種類は、①ビデオ（YouTube使用）、②音声のみ、③音声ダウンロード用の三種類です。それぞれの環境に合わせてお選びください。

なお、ご視聴にはユーザー名とパスワードが必要です。

ご興味のある方は所属教会の牧師まで

神学校HP <http://jbbc.jpn.org/etc.html>

## 授業紹介 聖書史地理

八千代聖書

バプテスト教会

聖書史地理担当

白石 きみあき 公章



聖書地理ならわかるけど、聖書史地理、聞き慣れない科目名です。でも、「史」の一文字が入ると、その扱う内容が大きく広がります。さて、この授業の目当ては次のように表されます。

1. 聖書の舞台となったパレスチナおよびオリエントの地理を理解する。
2. エジプト、メソポタミヤ文明の起こりからローマ時代までのオリエント史の中で、旧約聖書から新約聖書に至るまでのイスラエルの歴史を位置づける。
3. 聖書は歴史的にも正確な記述がされていることを考古学的な資料から確認する。

これを一日6コマ、5回の授業で学びます。

初回の授業では、聖書の舞台となった中東、パレスチナの地形や気候について学びます。この地域は古代文明発祥の地とされるエジプトとメソポタミアにはさまれた地域で、その形状から肥沃な三日月と言われる場所です。まず、白地図を用意して現代の国境線から国名を書き入れてもらうのですが、意外と書けないものです。

そして、聖書の巻末についている聖書地図で目にするシナイ半島や、パレスチナが意外と狭い地域であることに気づかされます。イスラエル王国の広さは日本で言うと四国ぐらいの面積で、緯度は九州の中部から南部と重なり、ガリラヤ湖は熊本市、エルサレムは鹿児島市の少し上くらいです。緯度が同程度ということは、アブラハムの見た星は私たちが目にする星座と変わらないということになります。ただし、肉眼で見える星の数は圧倒的にアブラハム時代が多かったにちがいありません。また、この地域は西側に海(地中海)があるために冬に降水があります。日本でも日本海側は冬に雪が降るのと同じです。降水量は日本にくらべて少なく、エルサレムですと600ミリ程度ですから、日本では大型の台風が複数来ればそれを越えてしまうでしょう。

2回目の授業では、古代オリエントの歴史を概観します。社会科が選択制になり世界史を学んでいない学生もいますから、紀元前3000年～紀元1000年までのオリエント史を頭に入れてもらいます。これはその後の授業で、各時代の国際情勢や民族の興亡を知ることによって、その背景を分かりやすくするためです。聖書は歴史の教科書として書かれているわけではないので、世界史のすべての出来事を記述しているわけではありません。ですから、これを学んでおくと、聖書の記述においても合点する部分も多いのです。ダビデの時代、エジプトとメソポタミアでは大国の衰退期にあたっていました。それを好機として、イスラエルは国家を樹立したのでした。

3回目と4回目の授業では、主に旧約聖書の記述見ながら、ひたすら地図を追いかけます。アブラハムはカルデアのウル(メソポタミア)を出て、ハラン(シリア)、約束の地カナンへ、そしてエジプトにまで移動しています。また、それまで無味乾燥なカタカナの羅列にしか見えなかった町々の位置が明らかになると、出来事背景が見えてきます。イスラエル王国分裂の兆しは、すでにダビデの時代に見ることができます。

また、ここで中間時代(第2神殿期)について学びます。この時代は通常の教会生活ではほとんどふれられることが無いと思います。旧約聖書と新約聖書の間、沈黙の400年と言われるように、神の言葉が聞かれなくなった時代でした。しかし、オリエント史においては大きな変革の時代でした。旧約聖書の歴史書はアケメネス朝ペルシャによる支配で終わっていますが、その後アレクサンダー大王がペルシャを滅ぼし、オリエントのヘレニズム(ギリシャ)化が始まります。これに対してユダヤ人たちはどのような答えを出したのか?紀元前100年半ばに、ユダヤの独立戦争が起こり、ハスモン朝が成立します。実は新約聖書に登場するパリサイ人やサドカイ人の起源はこの時代にありました。しかし、この王朝も強大なローマ帝国の前に終焉を迎えます。

最後の授業では、新約聖書を見ていきます。旧約聖書と比べて、福音書の扱う地域は決して広くはありませんが、イエス様の生涯を追いながら、誕生からガリラヤ伝道、そしてエルサレムでの最後の一週間を確認していきます。また、

その時代のローマ帝国の支配とユダヤ人の関係を知ることによって、福音書の理解が深まります。使徒の働きでは、ペテロを中心としたエルサレム教会の進展に始まり、パウロの伝道旅行では、地中海世界を神に導かれて縦横無尽に行き巡る様子を見ることができます。特に著者であるルカが同行した部分(主語が私たち)では、その行程が手に取るように分かります。そして、最後に帝国の都ローマでこの書は終わっています。

また、課題として聖書考古学博物館を見学してレポートを書いてもらいます。実際に聖書の記述を裏付ける考古学的な資料を目にすると、聖書の記述の真実性に心躍ります。

この科目は、私たちに聖書のリアリティを一層増してくれるように思います。この授業の参考図書としているバイブルワールド(いのちのことば社ニック・ペイジ著)の序文で、著者は次のように言っています。

「聖書の舞台について知ることによって、聖書の物語を新たな視点で見ることができるようになり、聖書に記された出来事を現実のものとして理解できるようになる。」



授業風景

## 神学校の思い出

「私の神学校時代  
試練から祝福へ」

仁戸名聖書

バプテスト教会

小林 秀夫



私が入学したのは、1979年で25期生に当たります。その年は、L.L.バークETT師からキング師に校長が変わった年でした。神学校の歴史も山あり谷ありですが、その頃は一つの試練の谷間の時期ではなかったかと思えます。その頃、中心的な働きをしておられた先生が何人も辞められ、教育体制に不安を覚える状況でした。又、新入生も減り続け、その年には、一人の姉妹の入学が許可されただけで、当時、そうした事は前例がなく、危機的な状況と言われました。

その年の6月頃に私は大学を中退して入学するように示され、再度の入学試験をして頂きました。今でこそ、年二回の入学試験は恒例となっていますが、当時、そうした事は大変異例な事でした。新入生が姉妹一人だけでは困ると言うことで、再試験が許可されたのでした。入学時、私の上級生男子は4人おりましたが、全員結婚していた為、広い男子寮には私と上田廣行師との二人だけで寂しい限りでした。しかし、主の祝福により翌年にはそれが4名に倍増し、次の年には10人前後に増えて寮が狭苦しくなるほどでした。

こうした急成長の理由の一つは、キング校長の熱心な校長訪問の成果といえます。先生は何

人かの神学生を連れて、諸教会を訪問し、神学校に献身者を送って下さるようにアピールして回られました。先生は、毎週、大阪の高槻から千葉の神学校まで車で通われる激務でしたが、月に何回か、祈祷会の時間に諸教会へ訪問しておられました。私も先生に連れられて足利教会に証しに行った事もあります。そうした大変な犠牲を通して諸教会が神学校の危機的状況を知り、熱心に祈って下さった結果だと思えます。また、今も続けられている早天祈祷会もある姉妹（現鹿毛師夫人）の提案により学生会で自主的に始められ、そこでの学生達の熱心な祈りの答えであるとも言えます。

また、この時期の試練を通して神学校に幾つかの改善すべき事が示され、それが改められることにより祝福へ変えられていったと思います。校長のキング師や副校長の丸山師からバプテスト本来の根本主義信仰や世界宣教の重要性が強調された事は私にとっても素晴らしい霊的財産となりました。こうした試練から祝福へ変えられていった三年間を経験できた事は、その後の牧会の大きな励ましと参考になりました。この様な意味で私にとって最善な時に主が私をそこに導いて下さった事を感謝しています。

【予定】2019年

1/29,30 冬期講座 3/12 第1回入学考査

4/23～29 後期伝道実習

6/25～28卒業カンファランス週 28日卒業式

編集後記

主の御降誕を心から賛美します。前期もあと少しですが、厳冬期を迎えます。学生たちの健康と訓練のために引き続きお祈りください。

白石 公章